

| | | | | | | | |
|---|-----------------------------|----------|----|-------------|---------|------|----|
| 科目名 (英) | 体表観察 Surface Observation | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 2年次 | 担当教員 | |
| 学科・コース | 鍼灸科 | 授業 形態 | 演習 | 総時間 (単位) | 30 1 | 開講区分 | 後期 |
| 【授業の学習内容】 鍼灸臨床において、体表からの診察(視診や触診)は、治療部位を決定する上で重要である。その診察対象は皮膚から筋、骨といった解剖学的構造だけでなく、経穴も含まれる為、解剖学と経絡経穴学の知識をベースとした、触察技術と正確な取穴技術が必要になる。本科目では、体表から観察可能な解剖構造の触察技術及び、経穴・奇穴の局所解剖と取穴法について、学生同士の実践を通して学習する。身体部位毎に経穴の取穴とその反応の触診指導、トレーニングを中心に、経穴部位の局所解剖の知識の確認と取穴に必要な範囲での解剖構造の触察を行う。 | | | | | | | |
| 【到達目標】 経絡経穴学で学習した十四経の経穴について、正確な取穴技術を習得する。また、各経穴部位に関連する、局所解剖(骨、筋、血管、神経)について理解する。 <具体的な目標> 目標①指定された経穴について、正確に取穴(必要な解剖構造の触察も含めて)できる。 目標②指定された経穴について、その経穴部位に関連する局所解剖が答えられる。 目標③経穴部位での皮膚の反応や、触察した解剖構造(主に筋)の左右差(感覚の違い)を感じることができる。 ※目標③は感覚的な部分が多く、臨床に出てからも引き続き磨いていくものである為、努力目標とし、成績評価の対象とはしない。 | | | | | | | |

| 授業計画・内容 | |
|---|---|
| 1回目 | 上肢前面の取穴と体表観察を行う。 |
| 2回目 | 上肢後面の取穴と体表観察を行う。 |
| 3回目 | 頸部・上肢帯の取穴と体表観察を行う。 |
| 4回目 | 足部・下腿部の取穴と体表観察①を行う。 |
| 5回目 | 足部・下腿部の取穴と体表観察②を行う。大腿部の取穴と体表観察①を行う。 |
| 6回目 | 大腿部の取穴と体表観察②を行う。腹部の取穴と体表観察を行う。 |
| 7回目 | 胸部の取穴と体表観察を行う。 |
| 8回目 | 腰背部・仙骨部の取穴と体表観察①を行う。 |
| 9回目 | 腰背部・仙骨部の取穴と体表観察②を行う。 |
| 10回目 | 顔面部の取穴と体表観察を行う。 |
| 11回目 | 頭部の取穴と体表観察を行う。 |
| 12回目 | 要穴の取穴と体表観察を行う。 |
| 13回目 | 奇穴の取穴と体表観察を行う。 |
| 14回目 | 取穴実技試験を行う。 |
| 15回目 | 取穴実技試験を行う。 |
| 準備学習 時間外学 習 | (目標①②)前提として、授業で扱う範囲の経穴については、取穴部位の知識は不可欠です。経絡経穴学および解剖学の予習をして授業に臨みましょう。 (目標①)授業外でも他者の身体での取穴、触察トレーニングをしましょう。 (目標②)知識の活用が必要なので、取穴、触察しながらその部位の局所解剖について説明したり、学生同士で問題を出し合うなど、知識を出力するトレーニングを行いましょ。 |
| 評価方法 | 成績の評価は、各科目の『試験』の点数で100点満点とする。 『試験』には科目試験や中間試験、小テスト等の臨時試験などが含まれる。 |
| 受講生への メッセージ | 感覚的な部分の習得までは難しいかもしれませんが、正確な取穴のコツと不快感を与えない触り方はマスターできるようにしましょう。 授業計画:この授業は、毎回実技室にて実技を行います。実習着着用の上、対象となる部位を出しやすい服装で臨んでください。学生同士(ペアもしくは少人数グループ)で取穴、触察を行います。毎回同じペア、メンバーにならないようにしましょう。また被験者だけで終わらないよう、時間管理に注意して実技を行ってください。 |
| 【使用教科書・教材・参考書】 | |
| 教科書:新版 経絡経穴概論第2版 教科書執筆小委員会 著 医道の日本社 参考書:解剖学 第2版 河野邦雄・伊藤隆造 他著 医歯薬出版 | |